

「ケースでわかる! 精神科治療ガイドラインのトリセツ」 EGUIDEプロジェクトによるもので実臨床で困った時にどう問題を整理するかやガイドラインを元にどう考えるかが分かりやすく解説されています。「脳波判読オープンキャンパス 誰でも学べる7STEP」電極の名前などの基礎の基礎から、波の見方、部位の特定、デジタル脳波を読むための基本など古典的教科書を見ても今一つよくわからなかったところもわかりやすく解説されています。「ポケット臨床脳波」こちらはいまだ記録紙による脳波が現役のところの方に。必要最低限のメモとして、また今は薬屋さんからもらえなくなった脳波定規が付録で付いてきます。「精神・心理症状学ハンドブック[第3版]」精神科症候学について、精神機能別にまとめられているので、わかりやすいと思います。

---

今日の精神疾患治療指針（いわゆるアンチョコ本ですが、右も左も分からず外来をやるときには役立ちました）、精神・心理機能評価ハンドブック（各種スケールの解釈の仕方が載っていて役立ちます）、メモリークリニック診療マニュアル（認知症外来をやっているときに要点がコンパクトに載っていて役立ちます）、精神科臨床144のQ&A（他の本には載っていないような、かゆいところに手の届くトピックが役立ちます）、精神科リハビリテーション・ワークブック（患者さんに疾病のことについて、わかりやすく説明をするときに役立ちます）

---

・精神医学入門 西丸四方 今ではなかなか見られない患者さんの写真が載っていてイメージしやすい。・健康ライブラリーシリーズ 患者さんが読みやすい、疾患教育にも有用・摂食障害 切池信夫 摂食障害のイロハを学ぶのに・精神科身体合併症マニュアル 当直のお供に・医学論文のための統計手法の選び方使い方 阿部貴行 読みやすい統計の本

---

読んだことがない本も多かったのですが、見覚えのある本に関してはほぼ全てをオススメとさせていただきます。精神科レジデントが自前ですべて持っている必要はないと思いますが、きちんとした教科書やDSM-5のマニュアルなどは医局で必ず1冊あった方が良いと思います。

---

私自身の向き不向きというものもあるでしょうが、やはりDSM-5とガイドラインが基本かと思います。下手にあれこれ手を出すと苦労します。

---

CBT好きとしては、精神療法の基本: 支持から認知行動療法まで、がおすすです。

---

今日の治療薬（各章初めのまとめ文章が良い）、精神科レジデントマニュアル

---

精神療法家の仕事（どの学年になっても、その時々で学びがあります）

---

現代臨床精神医学 読みやすい上にある程度網羅されているため。

---

大人の発達障害ってそういうことだったのか

---

テスト：テストなので

---

精神療法の第一歩

---